

すべての在庫が同じではない、ABC分析（ABC Analysis）

記事のURL

<https://www.gklibrarykor.com/ja/article/10399/>

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

小さなコンビニ一軒にも数千種類の商品が並び、工場の部品倉庫には数万種類の品目が積まれています。これらすべてを同じように細かく数え、発注し、管理しようとすれば、人手も時間も果てしなく必要になります。しかし実際に詳しく見てみると、多くのお金が眠っている品目は思ったほど多くありません。この事実を在庫管理に活かした方法が「ABC分析（ABC Analysis）」です。ABC分析とは、品目ごとの年間使用金額を基準に在庫をA・B・Cの3つのランクに分け、ランクごとに管理の強さを変える在庫分類の手法を指します。本稿では、ABC分析が生まれた背景、ランクを分ける基本原理、実際の分析の手順、そしてランク別の管理方法と限界を補うさまざまな分析まで、順に見ていきます。重要な少数に力を集める在庫管理 ABC分析が生まれるまで ABC分析の根底には、少数の要素が全体の結果の大きな部分を占めるという古くからの観察があります。この観察が工場の倉庫の数字と出会い、一つの管理手法として定着しました。（1）パレートとジュランの観察イタリアの経済学者ヴィルフレド・パレート（Vilfredo Pareto）は、富の分布において少数が大きな割合を占めることに注目しました。品質管理の専門家ジョセフ・ジュラン（Joseph M. Juran）は、これを「重要な少数と些細な多数」という言葉でまとめ、経営の問題全般に応用